

# 令和5年度 特進文系数学 A シラバス

教授用資料

科目名	学年	単位数	使用教材
特数A	3	3	標準演習 PLAN100 数 I・A+II・B(数研出版) リンク数学演習 I・A 受験編 a+b(数研出版)

## I 科目の目標と評価の観点

目標	【数学 I】数と式, 図形と計量, 2 次関数, データの分析 【数学A】場合の数と確率, 図形の性質, 整数の性質 上記の各項目について復習し, 応用問題に耐える知識と技能の習熟を図る。また, 演習を通して応用的・発展的な問題に取り組む姿勢を養い, 大学入学共通テストに耐える力を身につけることを目標とする。			
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	【数学 I】 数と式, 2 次関数, 図形と計量, データの分析 【数学A】 場合の数と確率, 図形の性質, 整数の性質 上記の項目において, 基礎的な知識・技能はもとより, 応用かつ発展的な問題に積極的に取り組む姿勢を身につけている。	【数学 I】 数と式, 2 次関数, 図形と計量, データの分析 【数学A】 場合の数と確率, 図形の性質, 整数の性質 上記の項目において事象を数学的に考察し表現し, 思考課程を振り返り多面的・発展的に考える数学的な見方・考え方を身につけている。	【数学 I】 数と式, 2 次関数, 図形と計量, データの分析 【数学A】 場合の数と確率, 図形の性質, 整数の性質 上記の項目において事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	【数学 I】 数と式, 2 次関数, 図形と計量, データの分析 【数学A】 場合の数と確率, 図形の性質, 整数の性質 上記の項目において基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 基礎的な知識および発展的スキルを身につけている。

## 2 学習計画と観点別評価規準

【数学 I】

学期	月	学習内容	学習内容	観点別評価規準	考查範囲
		章名(配当時間) 学習のねらい	節名 項目名	[関]:関心・意欲・態度 [考]:数学的な見方や考え方 [技]:数学的な技能 [知]:知識・理解	
I 学期	4 月	リンク数学演習 I・A 受験編 a+b  Approach I <数と式>	・単項式の計算	・単項式や多項式, 整式, 同類項, 次数について理解している。 ・ある文字に着目して整式の同類項を整理できる。 ・整式を降べきに整理できる。 ・整式の加法, 減法の計算ができる。[関][考][技][知]	中間 考 査
			・整式の加法と減法		
			・式の展開	・指数法則を理解し, 計算に用いることができる。整式の乗法の計算ができる。 ・展開の公式を利用することができる。 ・対称式では輪環の順に文字式を整理できる。 ・式の特徴に着目して変形したり, 式を 1 つの文字におき換えたりすることによって, 式の計算を簡略化することができる。 [関][考][技][知]	
			・因数分解	・因数分解の公式を利用できる。 ・因数分解を行うのに, 文字のおき換えを利用できる。 ・整式を適切な形に整理することによって因数分解や計算ができる。 [関][考][技][知]	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実数</li> <li>・根号を含む式の計算</li> <li>・分母の有利化</li> <li>・平方根と式の値</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表すことができる。</li> <li>・実数を数直線上の点の座標としてとらえられる。</li> <li>・平方根の性質、平方根の積、商などについて、一般化して考えられる。</li> <li>・根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。分母の有理化ができる。 [関][考][技][知]</li> </ul>	中間 考 査
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次不等式</li> <li>・連立1次不等式</li> <li>・1次不等式の応用</li> <li>・絶対値を含む方程式と不等式</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次不等式を解くことができる。</li> <li>・1不等式の解を数直線を用いて表示できる。</li> <li>・連立不等式の解を数直線を用いて表示できる。</li> <li>・連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことができる。</li> <li>・<math>A &lt; B &lt; C</math> を <math>A &lt; B</math> かつ <math>B &lt; C</math> と考えて連立不等式を解くことができる。</li> <li>・不等式における解の意味を理解し、1次不等式の応用問題を解くことができる。</li> <li>・身近な問題を1次不等式の問題に帰着させることができ、問題を解くことができる。</li> <li>・絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。</li> <li>・絶対値記号を含む式について、絶対値記号をはずす処理ができる。 [関][考][技][知]</li> </ul>	
Basic	1. 数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Approach で学んだことを発展させた問題を解くことで、理解度の確認をする。</li> <li>・より実践的な問題の構成であるので、大学入学共通テストに対応できる問題となっている。 [関][考][技][知]</li> </ul>	
Approach2 <集合と命題>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合</li> <li>・命題条件</li> <li>・命題の逆, 対偶, 裏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の特徴によって、要素を列挙する方法と要素の満たす条件を示す方法を使い分けて、集合を表すことができる。</li> <li>・ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して処理することができる。</li> <li>・2つの集合の関係を、記号を用いて表すことができる。</li> <li>・ド・モルガンの法則を理解している。</li> <li>・命題の真偽を、集合の包含関係に結びつけてとらえることができる。</li> <li>・命題を表す記号を理解し、命題の真偽を考察することができる。</li> <li>・命題が偽であることを示すには反例を1つあげればよいことが理解できている。</li> <li>・必要条件, 十分条件, 必要十分条件, 同値の定義や使い方を理解している。</li> <li>・条件の否定を表す記号を理解している。</li> <li>・条件の否定, ド・モルガンの法則を理解しており、条件の否定が求められる。</li> <li>・命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。</li> <li>・整数の性質を証明するのに、文字を適切に用いることができる。</li> <li>・対偶, 背理法を理解し、命題を証明するのにこれらを適切に用いることができる。</li> <li>・間接証明法を理解し、命題を証明することができる。 [関][考][技][知]</li> </ul>	1 学期 中 間 考 査
Basic	2. 集合と命題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Approach で学んだことを発展させた問題を解くことで、理解度の確認をする。</li> <li>・より実践的な問題の構成であるので、大学入学共通テストに対応できる問題となっている。 [関][考][技][知]</li> </ul>	
Approach3 <2次関数>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数のグラフ</li> <li>・放物線の平行移動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>y = ax^2 + q</math>, <math>y = a(x-p)^2</math> などの表記について、グラフの平行移動とともに理解している。</li> <li>・<math>ax^2 + bx + c</math> を <math>a(x-p)^2 + q</math> の形に変形できる。</li> <li>・平方完成を利用して、2次関数 <math>y = ax^2 + bx + c</math> のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。</li> <li>・放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して考察することができる。</li> <li>・グラフの平行移動が、x軸方向、y軸方向の用語を用いて表現できる。</li> </ul>	1 学期 期 末 考 査

5  
月

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 次関数の最大と最小</li> <li>・2 次関数の最大と最小の応用</li> <li>・2 次関数の決定</li> <li>・2 次方程式</li> <li>・放物線と直線の共有点</li> <li>・2 次不等式</li> <li>・連立 2 次不等式</li> <li>・2 次不等式を満たす整数</li> <li>・2 次不等式の応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの平行移動の一般公式を活用して、平行移動後の放物線の方程式を求めることができる。</li> <li>・グラフの対称移動の一般公式を活用して、対称移動後の放物線の方程式を求めることができる。</li> <li>・2 次関数の値の変化がグラフから考察できる。</li> <li>・2 次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。</li> <li>・<math>y=a(x-p)^2+q</math> の形に変形し、最大値、最小値を求めることができる。</li> <li>・2 次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値が求められることができる。</li> <li>・最大・最小の応用問題に 2 次関数を利用できる。また、最大・最小の応用問題において、計算を容易にするような変数設定ができる。</li> <li>・定義域が変化するときの関数の最大値や最小値について考察することができる。</li> <li>・与えられた条件を関数の式に表現できる。</li> <li>・2 次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を使うことができる。</li> <li>・与えられた条件から 2 次関数を決定することができる。</li> <li>・2 次方程式を解く一般的方法として解の公式が利用できる。</li> <li>・2 次方程式の解の考察において、判別式 <math>D=b^2-4ac</math> の符号と実数解の関係を利用できる。</li> <li>・2 次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。</li> <li>・2 次関数のグラフと x 軸の共有点の座標が求められる。</li> <li>・2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。</li> <li>・2 次不等式の解と 2 次関数の値の符号を相互に関連させて考察できる。</li> <li>・2 次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。</li> <li>・2 次不等式を解くことができる。</li> <li>・式を解きやすい形に変形してから、2 次不等式を解くことができる。</li> <li>・2 次の連立不等式を解くことができる。</li> <li>・身近な問題を 2 次不等式の問題に帰着させることができ、問題を解くことができる。[関][考][技][知]</li> </ul>	
Basic	3. 2 次関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Approach で学んだことを発展させた問題を解くことで、理解度の確認をする。</li> <li>・より実践的な問題の構成であるので、大学入学共通テストに対応できる問題となっている。 [関][考][技][知]</li> </ul>	
Approach4 <図形と計量>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直角三角形と三角比</li> <li>・三角比の相互関係</li> <li>・三角比と式の値</li> <li>・三角比の拡張</li> <li>・正弦定理</li> <li>・余弦定理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直角三角形の正弦・余弦・正接が求められる。</li> <li>・直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、応用問題に利用できる。</li> <li>・具体的な事象を三角比の問題としてとらえられる。</li> <li>・<math>\sin^2\theta + \cos^2\theta = 1</math> を三平方の定理ととらえられる。</li> <li>・三角比の相互関係を利用して、1 つの値から残りの値が求められる。</li> <li>・座標を用いた三角比の定義を理解し、三角比の値から <math>\theta</math> を求めることができる。</li> <li>・正弦定理における <math>A=B=C=D</math> の形の関係式を適切に処理できる。</li> <li>・正弦定理を利用して、三角形の外接円の半径、辺の長さや角の大きさが求められる。</li> <li>・正弦定理を測量に応用できる。</li> <li>・余弦定理を利用して、三角形の辺の長さ、角の大きさが求められる。</li> </ul>	2 学 期 中 間 考 査

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正弦定理と余弦定理の応用</li> <li>・三角形の面積</li> <li>・空間図形への応用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余弦定理を測量に応用できる。</li> <li>・余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。</li> <li>・三角形において、正弦の値から角はただ1つに定まらないことを理解している。</li> <li>・三角比を用いた三角形の面積公式を理解している。</li> <li>・三角形の面積を、決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。</li> <li>・3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求められる。</li> <li>・正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。</li> <li>・正四面体の体積の求め方を理解している。</li> <li>・多角形を三角形に分割して面積を求められる。[関][考][技][知]</li> </ul>		
6月	Basic	4. 図形と計量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Approach で学んだことを発展させた問題を解くことで、理解度の確認をする。</li> <li>・より実践的な問題の構成であるので、大学入学共通テストに対応できる問題となっている。[関][考][技][知]</li> </ul>	
6月	Approach5 <データの分析>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの代表値</li> <li>・データの散らばりと四分位数</li> <li>・分散と標準偏差</li> <li>・データの相関</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求められる。</li> <li>・範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較できる。</li> <li>・四分位数の定義を理解し、それを求められる。</li> <li>・四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。</li> <li>・箱ひげ図をかき、データの分布を比較できる。</li> <li>・偏差の定義とその意味を理解している。</li> <li>・分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、公式を用いて、分散、標準偏差を求められる。</li> <li>・散布図を作成し、2つの変量間の相関を考察できる。</li> <li>・相関係数の定義とその意味を理解し、定義に従ってそれを求められる。[関][考][技][知]</li> </ul>	2学期 中間 考查
	Basic	5. データの分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Approach で学んだことを発展させた問題を解くことで、理解度の確認をする。</li> <li>・より実践的な問題の構成であるので、大学入学共通テストに対応できる問題となっている。[関][考][技][知]</li> </ul>	

<p>Approach6 &lt;場合の数と確率&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の要素の個数</li> <li>・場合の数</li> <li>・順列</li> <li>・円順列と重複順列</li> <li>・組合せ</li> <li>・同じものを含む順列</li> <li>・確率</li> <li>・独立な試行と確率</li> <li>・反復試行の確率</li> <li>・条件付き確率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求められる。</li> <li>・和集合、補集合の要素の個数の公式を利用できる。</li> <li>・ベン図を利用して和集合や補集合の要素の個数を求められる。</li> <li>・具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求められる。</li> <li>・樹形図を用いて、場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。</li> <li>・和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求められる。</li> <li>・順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。</li> <li>・順列、円順列、重複順列の公式を理解し利用する。</li> <li>・簡単な場合の数を、順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができる。</li> <li>・条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。</li> <li>・組合せの公式を理解し、利用することができる。</li> <li>・簡単な場合の数を、組合せに帰着させて求めることができる。</li> <li>・条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させて処理することができる。</li> <li>・組分けの総数を求めることができる。</li> <li>・同じものを含む順列の総数を求めることができる。</li> <li>・組合せに条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。</li> <li>・重複組合せについて理解し、その総数を求めることができる。</li> <li>・確率の定義から、その求め方がわかる。</li> <li>・確率の性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。</li> <li>・確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる。</li> <li>・独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。</li> <li>・複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。</li> <li>・反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。</li> <li>・複雑な反復試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。</li> <li>・条件付き確率を、記号を用いて表すことができる。</li> <li>・確率の乗法定理を用いて2つの事象がともに起こる確率を求めることができる。</li> <li>・条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。</li> </ul>	<p>2 学 期 中 間 考 査</p>
<p>Basic</p>	<p>6. 場合の数と確率</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Approach で学んだことを発展させた問題を解くことで、理解度の確認をする。</li> <li>・より実践的な問題の構成であるので、大学入学共通テストに対応できる問題となっている。 [関][考][技][知]</li> </ul>	
<p>Approach7 &lt;図形の性質&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の外心と内心と重心</li> <li>・チェバの定理とメネラウスの定理</li> <li>・円に内接する四角形</li> <li>・円と直線</li> <li>・2つの円</li> <li>・直線と平面</li> <li>・多面体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の外心・内心・重心の定義、性質を理解している。</li> <li>・チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比を求める問題に活用できる。</li> <li>・円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めることができる。</li> <li>・四角形が円に内接するための条件を利用して、円に内接する四角形を求めることができる。</li> <li>・円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めることができる。</li> <li>・円の接線と弦の作る角の性質を利用して、角の大きさを求めることができる。</li> <li>・正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 [関][考][技][知]</li> </ul>	<p>2 学 期 中 間 考 査</p>
<p>Basic</p>	<p>7. 図形の性質</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Approach で学んだことを発展させた問題を解くことで、理解度の確認</li> </ul>	

		<p>認をする。</p> <p>・より実戦的な問題の構成であるので、大学入学共通テストに対応できる問題となっている。 [関][考][技][知]</p>	
Approach8 <整数の性質>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約数と倍数</li> <li>・倍数の判定法</li> <li>・素因数分解の利用</li> <li>・最大公約数と最小公倍数</li> <li>・整数の割り算と商と余り</li> <li>・ユークリッドの互除法</li> <li>・1次不定方程式</li> <li>・分数と小数</li> <li>・n進法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある整数 <math>a</math> の倍数は <math>ak</math> と表せることを使って、簡単な命題を証明することができる。</li> <li>・自然数の素因数分解を求めることができる。</li> <li>・2つの整数が互いに素であるかどうかを判別できる。</li> <li>・最大公約数と最小公倍数に成り立つ性質を利用して、2数の最大公約数と最小公倍数が既知のときにその2数を求めることができる。</li> <li>・整数 <math>a</math> を正の整数 <math>b</math> で割る割り算を、<math>a</math> と <math>b</math> の間に成り立つ等式としてとらえることができる。</li> <li>・2つの整数 <math>a, b</math> を除数と余りを用いて表し、<math>a+b</math> などの余りを求めることができる。</li> <li>・偶数、奇数の文字による表し方を理解し、利用し簡単な整数の性質を証明できる。</li> <li>・整数をある正の整数で割った余りで分類して、簡単な整数の性質を証明できる。</li> <li>・互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。</li> <li>・互除法を利用して、<math>ax+by=c</math> を満たす整数 <math>x, y</math> の組を求めることができる。</li> <li>・係数が小さい場合の1次不定方程式の特殊解を求め、すべての整数解を求められる。</li> <li>・係数が大きい場合の1次不定方程式の特殊解を求め、すべての整数解を求められる。</li> <li>・整数に関する問題を、1次不定方程式に帰着させ、問題を解くことができる。</li> <li>・循環小数を表す記号を用いて、分数を循環小数で表すことができる。</li> <li>・分数を小数で表したとき、小数第 <math>n</math> 位の数字を求めることができる。</li> <li>・<math>n</math>進法の整数を10進法で、10進法の整数を <math>n</math>進法で表すことができる。</li> <li>・<math>n</math>進法の小数を10進法で、10進法の小数を <math>n</math>進法で表すことができる。 [関][考][技][知]</li> </ul>	2 学 期 期 末 考 査
Basic	8. 整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Approach で学んだことを発展させた問題を解くことで、理解度の確認をする。</li> <li>・より実戦的な問題の構成であるので、大学入学共通テストに対応できる問題となっている。 [関][考][技][知]</li> </ul>	
数学 I A 標準演習 PLAN 100	<p>第1章(8) &lt;数と式、命題と集合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に復習した内容を深化させた学習内容。</li> <li>・発展的、応用的な内容を中心とした問題構成である。</li> <li>・応用かつ発展的な問題に積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数と式の基本問題</li> <li>2. 整数部分と小数部分</li> <li>3. 式の値</li> <li>4. 不等式と整数解</li> <li>5. 集合</li> <li>6. 必要条件と十分条件</li> <li>7. 絶対値を含む連立不等式</li> </ol> <p>[関][考][技][知]</p>	2 学 期 期 末 考 査
数学 I A 標準演習 PLAN 100	<p>第2章(3) &lt;2次関数&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に復習した内容を深化させた学習内容。</li> <li>・発展的、応用的な内容を中心とした問題構成で</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 頂点の <math>x</math> 座標、<math>y</math> 座標の最小</li> <li>12. 放物線が <math>x</math> 軸から切り取る線分の長さ</li> <li>13. 係数に文字を含む2次不等式</li> <li>14. 図形と最大、最小</li> <li>15. 区間に文字を含む2次関数の最大と最小</li> <li>16. 放物線と <math>x</math> 軸の共有点の位置 [関][考][技][知]</li> </ol>	

10月	ある。		
	第3章(8) 図形と計量 ・1学期に復習した内容を 深化させた学習内容。 ・発展的, 応用的な内容を 中心とした問題構成で ある。	17. 図形と計量の基本問題 18. 三角形の面積 19. 余弦定理 20. 角の二等分線の長さ 21. 円に内接する四角形 22. 測量と三角比 23. 三角形の辺と角 24. 正弦定理と余弦定理の証明 [関][考][技][知]	
	第4章(5) データの分析 ・発展的, 応用的な内容を 中心とした問題構成で ある。	25. データの分析の基本問題 26. 箱ひげ図 27. 相関係数 28. 散布図 29. 変量の変換 [関][考][技][知]	卒業 考 査
第5章(5) <場合の数と確率> ・1学期に復習した内容を 深化させた学習内容。 ・発展的, 応用的な内容を 中心とした問題構成で ある。	30. 場合の数と確率の基本問題 31. 数字の順列 32. 同じものを含む場合の順列 33. 最短経路の数 34. 組分けの問題 35. 組合せと確率 36. 条件付き確率 37. 反復試行の確率と条件付き確率 38. 塗り分けの問題 39. 場合の数を利用した条件付き確率 [関][考][技][知]		
11月			
12月			
3 学 期	1月	第6章(5) <図形の性質>	40. 図形の性質の基本問題 41. 三角形の内心 42. チェバの定理とメネラウスの定理 43. 接弦定理 44. 正四面体と外接球と内接球 [関][考][技][知]
	2月	第6章(5) <整数の性質>	45. 整数の性質の基本問題 46. 素因数分解 47. 素因数分解とn進法 48. 余りによる分類 49. 不定方程式 [関][考][技][知]

### 3 評価の観点と評価方法

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	【数学I】 数と式, 2次関数, 図形と計量, データの分析 【数学A】 場合の数と確率, 図形の性質, 整数の性質 上記の項目において考え方に興味をもち, 数学のよさを認識し, それを事象の考察に活用し数学的な考え方に基づき判断しようとする。	【数学I】 数と式, 2次関数, 図形と計量, データの分析 【数学A】 場合の数と確率, 図形の性質, 整数の性質 上記の項目において事象を数学的に考察し表現し, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることを通し, 数学的な見方や考え方を身に付けている。	【数学I】 数と式, 2次関数, 図形と計量, データの分析 【数学A】 場合の数と確率, 図形の性質, 整数の性質 上記の項目において事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	【数学I】 数と式, 2次関数, 図形と計量, データの分析 【数学A】 場合の数と確率, 図形の性質, 整数の性質 上記の項目において基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 発展的な知識を身に付けている。
評価方法	・学習活動への取り組み ・課題や提出物の状況	・定期考査 ・提出ノートの内容	・定期考査	・定期考査